

浜町から 風の便り 47

2022/9/1. 船橋市浜町 辻 秀幸

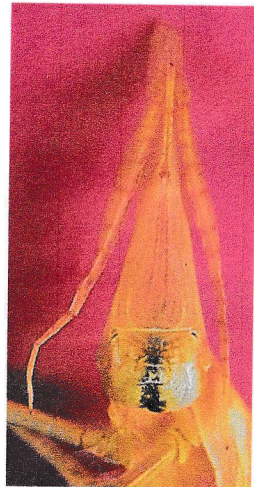
ぬけがら集合！

オンバッタ

(昆虫綱バッタ目オンバッタ科)

草の茎に白いモノを見つけた。透き通っている。こりゃなんだ。恰好はバッタやイナゴのように見える。この周辺にはオンバッタがよく現れるので、多分そうだろう。記録には困って、白骨化死体と書いておいた。

翌年、似た感じの白いのを見つけた。こちらはカマキリの鎌と思われるモノが確認できる。クモの巣の下に引っかかるようにぶら下っていた。ということはクモのエサとして体を吸い尽くされた残骸だろうか、と前年のオンバッタらしい白骨化死体も含めて、ひとまず納得。その途端に脳内ディスプレイに 変態、抜け殻 という文字が映し出された。



オンバッタと
はいいか減な推
定だが「虫のぬ
けがら図鑑」に
拠ると当たりの
ようだ
いか減な推定
は他の全ても同
じ、とご承知を

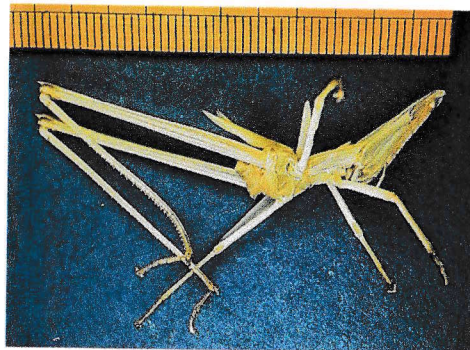
⇐ ⇨
2017/7/27.
船橋・浜町 1.「浜
町会館」脇

耐用期限がまもなく尽きそうな脳髓の最期の輝きか。

その後、ほかの種類のヌケガラらしきものを見つけた。一挙に大公開。

言い古された表現だが、人間も脱皮する。桜の花とともに入学した中学1年生。小学生のまま、おっぱいの匂いがする。夏休みを過ぎて会うと、エッと思うほど大人になっていた。脱皮したのだ。夏休みに何があったのだろうか。

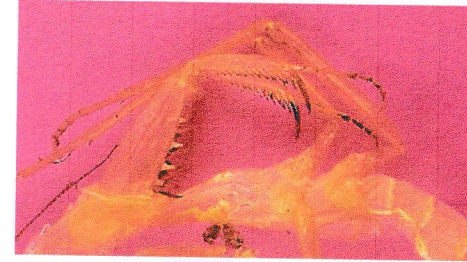
中には、学校や家族の期待に反してワルガキに変態する者がいる。人生八十有余年を経ると、この時期にワルガキになるのが本人や社会にとって悪いこと、損なことなのか簡単には断じられない。私の同級生のワルガキどもはそのまま高校生になり、化粧の濃いお姉さんを訪ねて「学割で・・・」おっとこれは once upon a time、long long ago のお話し。我が同級生諸君はみんな播磨の土になりました。



カマキリ

(昆虫綱カマキリ目カマキリ科)

クモの巣で見つけたヌケガラ。この辺によく表れるのはハラビロカマキリ。

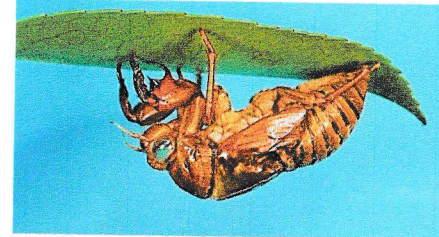


2018/7/22. 船橋・浜町 1.
マンション前のお宅の「見越しの松」

アブラゼミ

(昆虫綱カメシ目ゼミ科)

足先とか触覚とか細かい部分もうまく抜けていくとは、不思議とは思いませんか。(No.45 参照)



2022/7/27. 船橋・浜町 2.
「正一位伏見稲荷大明神」

ナナホシテントウ

(昆虫綱コウチュウ目テントウムシ科)

羽化の経過については No.42 参照。

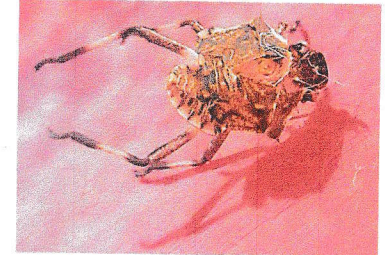


2017/5/17. 船橋・浜町 1.「浜町公園」

クサギカメシ

(昆虫綱カメシ目カメシ科)

近くに居た幼虫などからのいい加減な推理だが、当たりかもしれない。



2020/9 下旬 船橋・浜町 1.「浜町公園」

ダンゴムシ

(節足動物甲殻綱等脚目ダンゴムシ科)

脱いだあと、殻は食べる。この抜け殻の主はなぜか食べなかった。



2018/2/16. 船橋・飯山満 2.「千葉病院」中庭

クモ

(節足動物クモ綱クモ目)

ナガコガネグモであるらしい。



2021/5/18. 船橋・浜町 1.「浜町公園」

浜町から 風の便り 45 2022/7/1.

改訂版 2022/8/15.

船橋・浜町 辻 秀幸

アブラゼミ (昆虫綱カメムシ目セミ科)

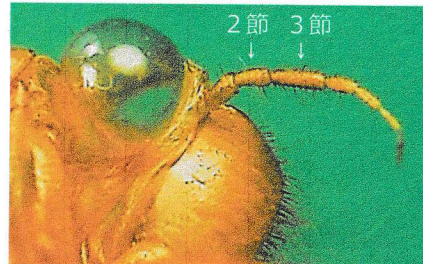
手持ちの図鑑に、アブラゼミの雌雄やほかのセミの抜け殻との見分け方が、わかりやすく説明してある。では実物を写してみよう。

触角 (ぬけがら)



⇐ 2020/8/5.
船橋・浜町 1. 「浜町公園」

2020/8/17. ⇐
船橋・浜町 2.
「正一位伏見稲荷大明神」



右触角

抜け殻で、節に分かれている触角の根元から2番目と3番目の長さ。3番目が2番目の1・5倍長いのがアブラゼミ。ほぼ同じなのがミンミンゼミ、だそうです。写真の抜け殻は確かにアブラゼミということになります。よくもまあずいぶん細かい所を見比べたものだと感じる。

触角は簡単に折れてしまう。持ち帰るとき、撮影の時、気をつけましょう。

前脚 (ぬけがら)



⇐ 2020/8/17. ⇐
船橋・浜町 2.
「正一位伏見稲荷大明神」

右前脚



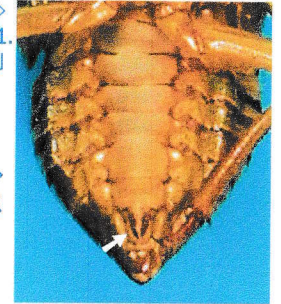
ぬけがらで、前脚にある中歯と前歯とが接近しているのがアブラゼミとミンミンゼミ。離れているのはエゾゼミやクマゼミ。エゾゼミもクマゼミも見たことがないので、この写真だけでは離れているのか近いのか判断できない。図鑑の説明図と見比べるとこれは接近している方となる。人はそれぞれ唯一無二の存在というが、比較対照することで、特徴とか違いとかが見えてくる。あなたはお子さんに手こずりましたか。学校で先生は、別人ほどにも違うお子さんの姿を見ていた筈です。

産卵管 (ぬけがら)

2022/7/27. ⇐⇐ 船橋・
浜町 2. 「正一位伏見稲荷大明神」



2021/8/10. ⇐⇐
船橋・浜町 1.
「浜町公園」



⇐
オス

⇒
メス

メスは卵を産む。産卵管が必要だ。だから、お腹の末端近くに「産卵管のもと」があるのがメス。私の人生経験からの知見では、こういう形の物があるのはオスだと思っていた。見かけで判断してはいけないのだ。

セミの抜け殻に注意をし始めてから、浜町でみつけれられる抜け殻はアブラゼミのメスがほとんど。ミンミンゼミは鳴き声が聞こえるだけだった。今年令和4年になって両方のセミの雌雄両方がどっさり見つけれられた。

腹弁

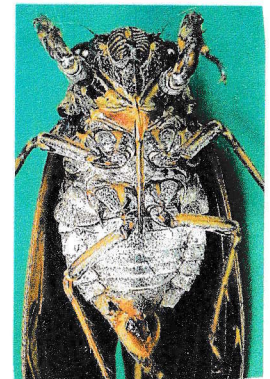
産卵する前にメスはオスと出会わなければならない。オスが鳴いて合図を送る。そのための器官が腹弁 (ふくべん)。従いまして、腹弁があればオス。



オス
2016/9/9.
船橋・浜町 1. 路上

メス
2019/8/9.
船橋・浜町 1.
マンション前

「メスにもある小さい」と最初はまとめた。図鑑などで改めて確認すると「無い」としているものがあって慌てた。「小さい」と表現している資料もある。メスの体内には音を出す仕組みは無い、という説明からすると、だから腹弁も無い、とするのが日本語としての流れだろう。セミ学(?)ではどうなっているのだろうか。



セミは七日の命。とよく言われるが、実際には1か月ほどらしい。そしてそれは地上に出てからのこと。地中でアブラゼミは6年間ほどを過ごす。その幼虫で過ごす期間もセミの生活なのだ。せっかく明るい地上に出られたのに短い命でつまらないだろう、暗い地中では退屈だろうというのは人間が勝手に想像するだけのこと。地中と空中と、面白いのはどちらかな。